

富田林税務署長賞

納得して支え合うために

初芝富田林中学校

三年 岡本 茉友子

みなさんは「税」と言われて何が思いつくだろうか。私は恥ずかしいことに、「ふるさと納税」で美味しい食べ物が届くことや病院での治療費が税のお陰で安くなるといったことぐらいいしか思いつかなかった。しかし、税について勉強していくと、安全な道路や信号機、点字ブロックといった私が毎日使う通学路にもたくさん税が利用されていることを知った。「学校に行く」という些細な行為も税に支えてもらっていることに気づき、私の毎日の暮らしは税と深く関わっているということがわかった。

さて、その税が今、8%から10%に上げられることに賛否両論、いろいろな意見が飛びかっている。反対意見の主な理由の1つとして、これ以上税金を負担するのは大変だというものがある。しかし、税について調べていると北欧の国々では日本よりはるかに高い税金を払っているにも関わらず、国民の税金に対する不満がそれほど高くないということを知った。なぜだろうかと疑問に思い、調べてみた。すると、税が正しく自分達の生活に役立っていると思う「納得感」が北欧の人々にはあるからだとわかった。私は、この「納得感」があれば税の引上げに反対の人の不満を抑えられるのではないかと考えた。では、この「納得感」はどのようなにして得られるのか。私は次の2つが必要だと思う。1つ目は、身の回りのあらゆるものが税を利用していることを楽しみながら知ることだ。私も税を勉強する時に動画やクイズをして楽しみながら知ったので、税金の意味を納得することができた。だから、小さな子供から大人まで楽しく勉強できるカードゲームやアプリなどを作って活用したら、税を理解し、納得できるようになると思う。2つ目は、自分が払った税

金の使い道を知ることだ。もし、使い道がわかれば自分のお金が社会の役に立っていると思えるので、納得できるのではないだろうか。

税は人が「支え合って生きている」ことの象徴だと思う。だから、不満を持ちながら税金を納めるのではなく、一人一人が「納得」して税金を納めることによって、一人一人が支え合って生きていることを実感し、相手を思いやることができるようになるのではないだろうか。そして、相手を思いやることができれば、一人一人を尊重しあえる社会になり、それは、みんながそれぞれに輝けるすてきな社会につながると思う。だから私は、「納得」して「支え合う」、「税」が必要だと思う。